

令和4年度 第1回学校運営協議会議事録

1 日時 令和4年5月10日(火) 15:20~16:20

2 場所 本校リスニング室

3 出席者 委員 10名

(大学教授等、自治会代表、PTA代表、行政関係、校長、副校長、事務長、経営企画課主任、総務課主任、教務課主任、進路指導主事)

オブザーバー5名(生徒会執行部3名(会長、副会長、総務)、岩手大学教職員大学院現職院生2名)

4 内容

(1) 辞令交付

【経営企画課主任】岩手県教育規則第2号岩手県立学校における学校運営協議会の設置などに関する規則を確認する。任期は一年と辞令にあるが、第3条3「委員は、再任されることができる」となっているので再任は可となる。

(2) 学校長挨拶

【校長】

・この会は、以前は学校評議委員会だった。それを発展する形で「学校運営協議会」となった。実際に学校運営に参加する組織である。導入後まだ一年だが、少し難しいところもある。教育活動は大本は前年度に決めている。細部は1~2ヶ月前に決まっているので、この協議会でも出されても変更は難しいものがあり、この会は限定的になる。しかし、魂は細部に宿るという。学校の実態を話題にざっくばらんに意見交換していただきたい。

・その際に重要な視点は生徒の視点。昨年度3回目はコロナで中止になったがその時から生徒参加を考えていた。県教委にも問い合わせをして参加は可能であると回答いただいた。今日は協議と意見交換だが、ざっくばらんに意見交換できれば、生徒にも学校、生徒会の状況を話してもらいたい。

(3) 会長・副会長選出

(4) 協議 (以下会長が進行)

①学校経営計画について

【校長】今年度の計画、その後スクールポリシーを説明する。その前に盛岡三高の十数年を説明した方がわかりやすいと思うので説明したい。平成18年度に学校改革を決断した。この時期から今の三高のスタイルが始まった。平成18年がターニングポイント。それまでの三高は受験勉強の物量戦、生徒に知識を植え付ける、大学合格実績は素晴らしいものがあっ

た。しかし、新たに着任した校長先生が、生徒が疲れている、覇気がない、元気がないと感じていた。その時、未履修問題が発生した。これは本校だけでなく多くの進学校がやっていたものであるが、そういった違和感を持って取り組んでいた校長が、未履修問題だけを解決するのではなく教育活動全般を変えていかなければならないと問題視した。数値を追いかける物量戦が本来あるべきものを歪めているのではないか。受け身の学びを能動的な学び、幅広い学びに、という方向で議論を重ねた。取り入れたのはディベート。能動的な学びである D プランと言われるもの。そして教師が教え込むスタイルから生徒が積極的に参加する参加型授業に職員が一丸となって取り組んだ。それにより少しずつ着実に変わってきた。

平成 22 年度、当時私は県教委にいたが SSH を三高に勧めた。23 年度からスタート。5 年間の事業。5 年後再指定はされなかった。指定はなくても SSH の内容をやり続けよう、と先生方で検討した。それが SRH。今年で 6 年目。その間 15 年。方向性とすれば校訓の随処為主、鴻鵠之志、教育目標「自主・創造・友愛」になっている。

・次に今年度の経営計画について説明する。

1 現状把握及び将来展望と 2 校訓・教育目標は昨年度と同様である。変更はしなかったが、昨年度も様々な提案や変更を検討した。例えば随処為主。具体的には全員強制参加にしていた課外を生徒に趣旨を説明した上で今年度から希望参加とした。また、多すぎる副教材は生徒に考えさせるような指導につながらないので、副教材の精選。全員一律の課題もおかしいのではないか、という話を教員にしてきた。教育目標が絵に描いた餅にならずしっかりと実現できるよう話をしてきた。

・ 3 「目指す学校像」以降は細かな話になる。

2 ページの (1) ウの重点目標「キャリア教育の充実と生徒の希望進路の実現」。昨年度は「組織的な進路指導体制の確立による」であったが、もう少し視点を大きく持った生涯生きていく力という意味で「キャリア教育」という言葉にした。

それぞれの達成指標は、昨年度は複数指標があった。県からの指導もあり、精選をして一つの目標に対して一つの指標にした。

・ (2) 取り組み方針「ウ キャリア教育の充実と生徒の希望進路の実現」も、タイトルが「キャリア教育の充実」という言葉に置き換わっている。

(ア) の言葉が新しく入っている。昨年度は (ウ) に位置付けていた文章を書き換えた。これも視点を広く持った観点で変えたものである。

・「オ 学校いじめ対策委員会の取組を中核としたいじめ防止」の部分は昨年度に加えて、「保護者の協力を得るとともに関係機関・専門機関と連携して」とした。もっと広い連携を視野に置いたものである。

・加えて別紙の学校経営計画は、細部において大本の経営計画に基づいて各分掌・教科において設定されている。

【会長】学校運営の大元になっている学校経営計画について質問はあるか？何かご意見の方はあるか？進路指導をキャリア教育全般、生涯教育の視点ということで変えたのが大きな変更かと思う。いじめ対策の在りようを少し変えた。専門的な視点、保護者の視点をいれるという変更がなされた。

ご承認いただけるか。

【委員】異議なし。

【会長】承認と認める。

②スクールポリシーについて

【校長】スクールポリシーについて説明する。

・文科省が考えている高校改革の一つ。全ての高等学校における特色魅力ある高校のあり方を検討するもの。学校目標は少し抽象的でわかりにくい。県教委がスクール・ミッションを作って、各学校が作るのがスクールポリシー。整合性のあるスクールポリシーを各学校で制定するものとされた。9～12ページが県教委から示された様式となる。

・一つ目に学校教育目標を掲げる。これは学校経営計画にもある。本校の育てたい生徒像に当たる。これは平成22年度に作られたもの。学校改革の最中に方向性を持って作られたものでとても素晴らしいものだと思っている。一番は随処為主、二番は鴻鵠之志とあえて三番を加えたのが三高の素晴らしいところだと思う。これを生かしたいと思った。

・具体的なスクールポリシーは「2 三つの方針」から。

グラデュエーション・ポリシーは、この学校を卒業したらこういう生徒になりますというメッセージ。一番上に生徒全体を学校としてこういう生徒にしたい、二番目は普通科、三番目は理数探究コースについて書かれている。主体的とか、目標に向かって進んでいくとかいうような随処為主に関わる姿勢の部分が書かれている。普通科のところを見ると体系的に捉えて有機的に思考し、多面的に、など様々な知識を複合的に捉えて提案できたり発信できたりすると考えている。理数探究コースはその中身から理科や数学、探究する力について書かれている。

・10ページ 上段はカリキュラムポリシー。これはどういうふうに生徒を育成するのかについて記されている。

ここでも参加型授業という言葉を使っている。主体的対話的で深い学びと文科省も言っているが、本校ではずっと前から取り組んできた。教科横断的というのは、つながりのある学びをすること。思考の過程を重視する授業、適性や進路希望に応じた幅広い選択科目を設定し、今後もっともっと幅広い選択科目を設けていきたい。この後説明が在るが、進学型単位制について検討している。

・スクールポリシーは中長期的な学校の方向を示すもの、5年10年のスパンで学校がどう

いうふうに進んでいくかを示したものの。

・アドミッションポリシーは入学者にのぞむ、こういうふうに通強したり取り組んだりして入ってきてほしいというもの。理数探究コースは1年時に選択するが、入学時に希望している生徒もいるだろうから、分けて書いている。応用的思考力はこれからの意欲を持ってほしい、日々の勉強と特別活動両立のために今主体的に取り組んでいる、地域やグローバル社会において自分の関心を広げてほしい。

・11ページは連携先。12ページは現在の特色ある教育課程を書き出している。一番最後は進学型単位制の検討について触れているもの。

【会長】スクールポリシーについて説明があったが、何かわからないことがありましたら質問を。中長期的な計画ということだったが。

【委員】大雑把な質問になるが、平成22年からスクールポリシーが定められて今で10数年だと思うが、感触として参加型学習が、物量戦から変えてどのような影響があったかお聞かせ願いたい。

【校長】数字的なものでこういうふうになりましたというのは難しいものがある。当時大学入学者数はそれこそ素晴らしい実績があった。それが伸びた、というのではない。数字で何か表せるかということ、授業評価のアンケートの数値、平成24年からスタートしているが、先生の授業を4段階でやっているが、これが伸びていて、今頭打ち。今おっしゃったのは生徒の変化をしりたいということだろう。三高を卒業して大学でのリーダーシップや、議論などでの積極性などは大学の先生から三高生は他の高校より高い、と言われる。

【進路指導主事】不登校の数が減った。様々な理由があるのでこの手段を用いれば、という道筋が立てられないものではあるが、大きな変化だと感じている。

【委員】参加型授業とは何回も出てくるが、具体的にどういう進め方か。イメージがわからない。

【校長】従来高校の授業とは、学識が高い先生が講義をして生徒が聞き書き写す、というものだったと思うが、参加型授業は例えば先生が生徒に投げかけて考える、考える前に隣と少しディスカッションをしてまとめる。先生が話すだけでなく、考えたりディスカッションしたり発表したりというもの。

【委員】生徒の質問などで時間内に収まらない場合もあると思うが、そういう場合は途中で打ち切るのか？

【校長】その質問は実に課題を表している。はみ出してしまったり、薄くなるのではないかという課題も指摘されるが、生徒が自ら考えるようになるとそういう時間が短くても生徒が吸収している。社会に出ればそれぞれの分野で、自分で資料を持ってきて自分で勉強しなければならなくなる。キャリア教育の視点も含まれる。

【委員】生徒会の生徒の皆さんはいかがか？

【生徒会長】野尻先生が不登校の数が減ったと言っているが、私の考えでは参加型授業の最終形は小学校中学校の授業なのではないか。小中の先生は一回生徒に話しかけて、答えを聞いて授業する。参加型の前は高校の先生の授業は先生が話すものだと思っていた。参加型授業によって、高校授業についていけなかった生徒もお互いに頑張ろうとなるのではないか。

【委員】わかりました。ありがとうございます。

【委員】グラデーションポリシーの真ん中に、SDGs、復興教育、地域学習とある。地域学習について具体的な事例があれば。

【木村克則校長】SRH の冊子の中にも盛り込まれているが、例えば1ページの総合的な探究の時間の5月のところに毎週のようにSDGsが盛り込まれている。

【経営企画課主任】総合的な探究の時間の中にSDGsに絡めて地域の活動について学ぶ場面がある。今、3学年では新聞を購読して地域の活動に興味がある記事を持ってきて共有するというをしている。コロナ禍のため、修学旅行で京都等にいけなかった。3年生の修学旅行は盛岡市内。盛岡学と名付けて改めて盛岡の歴史などを学んだ。

【委員】盛岡学等のことだが、今度盛岡市議会に三高さんが参加していただけるということ、そういうことも地域理解の一端になるかと思うが。

【校長】部活動や生徒会の一部の取組で、全体のものではないので冊子には書けないが。生徒会長がいくのか？

【生徒会長】副会長が参加する。

【委員】またその時の感想や意見を楽しみにしている。遠隔教育、チームズによる、とあるが、これはコロナ対策か？

【木村克則校長】その通り

【委員】チームズというのは？

【校長】アプリの名前である。

【会長】総合教育センターでも遠隔で遠くにある学校に授業を配信するなどをしている。スクールポリシーについて承認していただけるか。

【委員】異議なし。

【会長】承認していただいた。協議にご協力ありがとうございました。

(5) 意見交換

【経営企画課主任】意見交換の前に執行部の方から学校生活や生徒会活動についてお話しいただきたい。

【生徒会長】昨年度から新たな取り組みを始めた。一つは節電。二つ目は不用品を集めるプロジェクト。鉛筆や消しゴム、ランドセルを集めて海外に渡すという活動を始めた。総計で800を超えるものが集まった。協力いただいたNPO法人の方も喜んでいて。他に高校代表会。農業、工業、商業、北高、二高の生徒会長が集まって議論するというをやっている。

る。企画段階だが、新たに南部せんべいと協力することで農業高校の果物を使ったせんべいを作ることを農業と商業と三高で考えている。近くの誠桜高校調理科とも連携したい。

【経営企画課主任】せっかくの場なので委員の皆様から何かないか。ご質問でも構わない。

【会長】高校代表会という名前がいいか？これで色々活動しているのか？

【生徒会長】どの学校もコロナで活動が縮小しているので、その話し合いもおこなっている。長期的プランとしてはこれを引き継いでもらい、10年後には合同の高校フェスティバルを実施してほしい。しかし、コロナもあるので、高校全てで一つの商品を作りたい。

【会長】その中心に三高があると考えていいか？

【生徒会長】提案したのが三高なので。

【経営企画課主任】生徒も参加しているので、会が終わった後にでも聞いていただければ

(6) その他

【委員】次回の予定を確認したい。

【経営企画課主任】年間計画をご覧いただきたい。8月27日の三高祭。ただし、コロナ禍なので三高祭の変更があったら連絡する。年度末は2月に予定している。第2回は生徒の活動の様子を見ていただきたい、3回目は今年度の活動の評価、今年度の活動にご意見をいただきたい。